

報道関係者各位

令和7年5月22日
福祉保健部 感染症対策センター
感染症対策監 宮澤 健一
電話 055-223-1321

県内の百日咳感染者数が増加しています

全国的に感染者が増加している百日咳について、山梨県内においても第15週（4/7～4/13）以降感染者の増加が顕著となり現在も高止まりの状況です。予防対策について改めて県民に周知したいので、報道機関の皆様方にも御協力をお願いいたします。

発生動向

- ・全数報告の対象となった2018年以降、県内での報告数が最も多かったのは152人（2018年）ですが、今年は第20週（5/12～5/18）までに64人の報告があり、現在の状況が続くと過去最多を超えるおそれがあります。全国では19週時点で過去最多に迫る状況となっています。（図1、2、3）
- ・報告のあった感染者のうち約55%を15歳未満が占めており（図4）、乳児の感染も確認されています。

図1

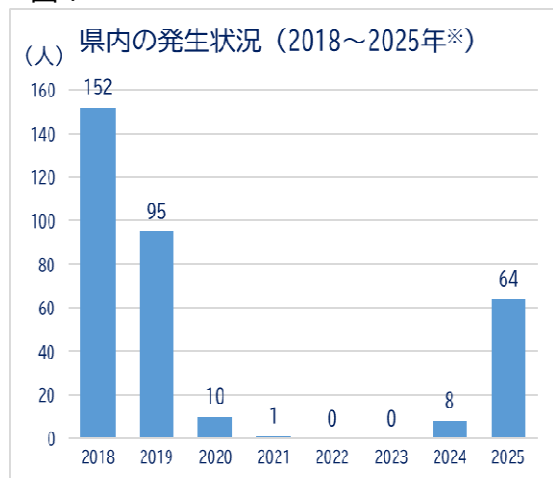


図2

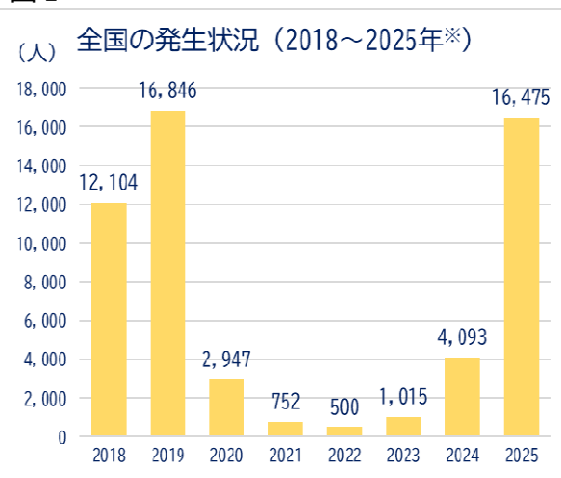


図3

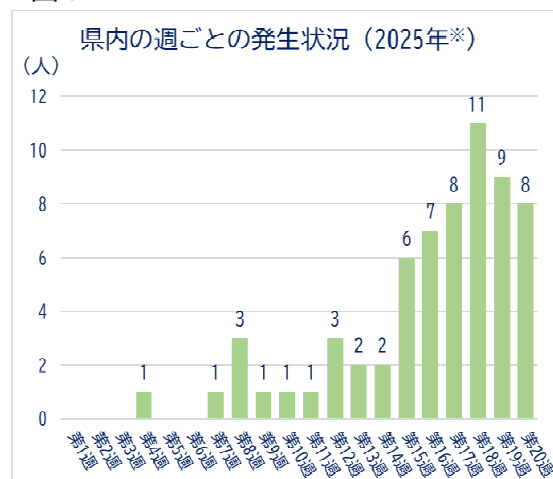
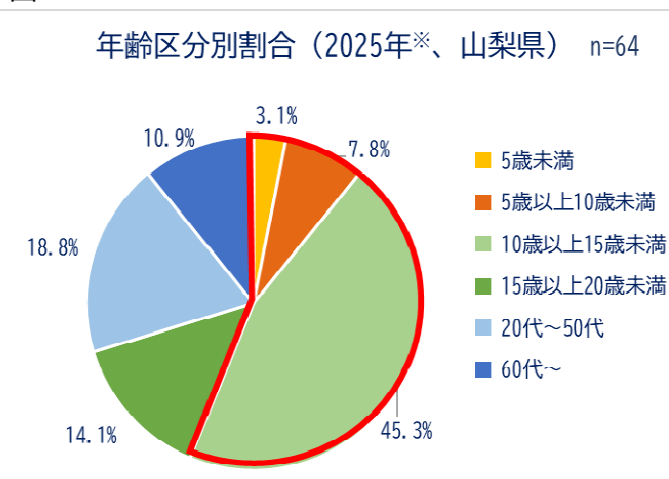


図4



※2025年は、全国は第19週（5/5～5/11）まで県は第20週（5/12～5/18）までの報告数

百日咳について

- ・百日咳菌の感染によっておこる感染力が強い急性の呼吸器感染症です。**発作性けいれん性の咳が特徴です。**
- ・かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。乳児では激しい咳による無呼吸発作、チアノーゼ（顔色や唇の色や爪の色が紫色に見えること）、けいれんや呼吸停止に進展することがあります。
- ・いずれの年齢でもかかる感染症ですが、小児が中心となっています。母親からの免疫が十分でなく、乳児期早期からかかる可能性があります。
- ・**乳児（特に新生児や乳児期早期）では重症化しやすく、肺炎、脳症を合併し、まれに死に至ることもあります。**
- ・学校保健安全法上「特有の咳が消失するまで、または、5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまでは出席停止」とされています。

百日咳の予防対策（感染症対策センター医師より）

●基本的な感染対策

飛沫、接触感染により感染が広がる感染症のため、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等が大切です。**感染者が増加している状況のため、咳が出るときはマスクをつけましょう。**

●ワクチン接種

- ・百日咳はワクチン接種（5種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等）による予防が有効です。**定期接種の対象月齢（生後2か月）になったら遅れずにワクチンを接種しましょう。**
- ・産まれたばかりの新生児や乳児を百日咳から守るために、妊婦さんが3種混合ワクチンを接種するという方法があります。こちらは任意接種のため、接種を検討される方は早めに主治医にご相談をお願いします。

症状があるときは

- ・咳が長引くときや悪化するときには百日咳の可能性を考え医療機関を受診してください。
- ・受診の際は事前に医療機関へ電話をし、受診方法などを確認しましょう。

参考

厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/whooping_cough.html

国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイト

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/pertussis/010/index.html>

やまなし感染症ポータルサイト

<https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho/hyakunichizeki.html>